

Hokkaido University News

北大時報

平成29年

6

No. 759 June 2017

名誉教授称号授与式の挙行
オタゴ大学と大学間交流協定を締結



全学ニュース

- 1 名誉教授称号授与式の举行
- 1 オタゴ大学と大学間交流協定を締結
- 2 名和総長が第11回日中大学フォーラム（上海）で基調講演
- 2 ボゴール農業大学ジョブフェア2017への参加とインドネシアリエゾンオフィス開設
- 3 北大フロンティア基金
- 5 新渡戸スクール入校式を開催
- 6 札幌キャンパスで第14回「キャンパス・クリーン・デー」を実施
- 6 高等教育研修センターにて各研修等を開催
- 7 国際教育研究センターで「一般日本語」「多文化交流科目」2017年度第1学期を開講

部局ニュース

- 8 歯学研究院・歯学院が香港大学牙醫学院と部局間交流協定を締結
- 8 保健科学研究院が岩見沢市と連携協定を締結
- 9 函館キャンパスで「春のキャンパス一斉清掃」を実施
- 9 経済学院・会計専門職大学院と経済学部で北海道財務局特別講演会を開催
- 10 経済学院・経済学研究院・経済学部でFD研修を開催
- 10 会計専門職大学院で日本内部監査協会と共催セミナーを開催
- 11 獣医学部で「地方自治体等合同就職説明会」を開催
- 12 農学研究院で平成29年度第1回FD研修会を開催
- 12 国際広報メディア・観光学院で平成29年度履修証明プログラム「デスティネーション・マネージャー育成プログラム」がスタート
- 13 北方生物圏フィールド科学センターで「植物販売会」を開催



保健科学研究院
岩見沢市と連携協定を締結



経済学院・経済学研究院・経済学部
FD研修



オタゴ大学と大学間交流協定を締結



第14回「キャンパス・クリーン・デー」

- 14 植物園の夏期開園とオリジナルグッズの販売
- 15 大学院授業の一環として学生がミュージアムグッズを開発
- 16 有賀一郎旧蔵資料を大学文書館で受贈
- 17 看護週間－「看護の日のタベ」ほか様々な催しを実施
- 17 北海道日本ハムファイターズがひまわり分校の子どもたちと交流

諸会議の開催状況 18

学内規程 18

表敬訪問 19

人事 20

訃報

- 21 名誉教授 須田 勝彦 氏
- 22 名誉教授 石井 邦宜 氏
- 22 名誉教授 羽田野 六男 氏

資料

- 23 在籍学生数（平成29年5月1日現在）
- 25 平成29年度外国人留学生数（平成29年5月1日現在）
- 26 平成29年度国別外国人留学生数（平成29年5月1日現在）
- 27 平成28年度卒業・修了者の就職等状況一覧



北方生物圏フィールド科学センター
植物販売会



総合博物館
ミュージアムグッズ開発

表紙：植物園の夏期開園とオリジナルグッズの販売（関連記事14頁に掲載）

裏表紙：北の鉄道風景⑤ 夕日を浴びて

■全学ニュース

名誉教授称号授与式の挙行



名誉教授称号授与式出席者一同

先に本学名誉教授に決定された方々（43名）に対する称号授与式を6月7日（水）に学術交流会館講堂において執り行いました。

当日出席された19名の名誉教授一人ひとりに、名和豊春総長が称号を授与

した後、永年にわたるご尽力に感謝の言葉が述べられました。閉式後は記念撮影が行われました。

また、引き続きファカルティハウス「エンレイソウ」レストランエルムにおいて、この度称号を授与された名誉

教授と道内在住の名誉教授、役員、副学長、部局長との懇談の場として企画された名誉教授懇談会が農学研究院を幹事として行われました。

懇談会には、名誉教授、役員、副学長、部局長を合わせて60名が出席され、横田 篤農学研究院長の開式の辞に始まり、名和総長の挨拶と乾杯、担当理事による大学の状況報告、新旧の名誉教授のスピーチがあった後、徳久治彦理事・事務局長の乾杯、「都ぞ弥生」斉唱へと続き、横田農学研究院長の閉式の辞で盛会のうちに懇談会を終えました。

（総務企画部人事課厚生労務室、
農学院・農学研究院・農学部）

オタゴ大学と大学間交流協定を締結

5月18日（木）、ニュージーランドのオタゴ大学と学術交流に関する協定及び学生交流に関する覚書の調印が行われました。調印式には、オタゴ大学からリチャード・ブライキー副学長、本学から名和豊春総長、笠原正典理事・副学長、石森浩一郎理学研究院長、松島俊也教授ら6名が出席しました。

オタゴ大学は1869年に設立されたニュージーランドで最も歴史のある総

合大学です。4部門47コースを有し、学生約20,600人と教職員約3,800人が在籍しています。本学では理学研究院をはじめとして、水産科学研究院や北極域研究センターでも、それぞれ交流を進めてきました。本協定の締結により、両大学の更なる教育・研究交流の推進が期待されます。

当日は、オタゴ大学出身のビル・イングリッシュ ニュージーランド首相が初めて来道し、北海道と駐日ニュー

ジーランド大使館のパートナーシップ覚書の締結に立ち会いました。同会場には、本学とオタゴ大学の関係者も招待され、事前に大学間交流協定締結の調印式を行いました。覚書締結の発表の際には、本学とオタゴ大学が協定を結んだことも併せて発表されました。

（国際部国際連携課）



署名後の名和総長（右）とブライキー副学長



イングリッシュ首相夫妻との記念写真



イングリッシュ首相と懇談する名和総長

名和総長が第11回日中大学フォーラム（上海）で基調講演

5月14日（日）、上海世貿商城（上海）において、第11回日中大学フォーラムが開催され、名和豊春総長が基調講演者として出席しました。当日は日本側から25大学、中国側も約50大学の学長や副学長、さらに政府や産業界の方々が参加し、総勢で400名を超える産官学の交流が催されました。

日中大学フォーラムは、科学技術振興機構（JST）と中国国家外国専門家局との共催で、日中大学間の「人材育成交流」「頭脳循環の強化」「国際産学連携」を目的に平成22年に東京で第1回が開催され、日中間の学術交流最大のイベントの一つとして、高い評価を得ています。

第11回目となる今年は、「大学経営、国際化、人材育成など日中共同の課題について」をテーマに、午前には本学及び中国科学院大学の総長による基調講演の後、JST特別顧問よりさくら

サイエンスプランの紹介が行われました。午後は日中の主要大学長等によるパネルディスカッションが行われ、日中の大学が直面する大学経営、国際化、人材育成等の課題について活発な議論が交わされました。

名和総長は基調講演で、本学が現在取り組んでいる大学の国際化、特に中国との国際化の状況について紹介しました。講演の中で、クラーク博士が札幌農学校で教えたLofty Ambitiousを取り上げ、本学が根底に流れるこの精

神を持って国際的な教育・研究に励んでいること、また、中国出身である龔劍萍先端生命科学研究院教授のソフトウェアの研究に加え、地域の特性を生かした研究として低温科学や鳥インフルエンザを含む人獣共通感染症研究などを紹介しました。さらに、北海道の自然や食資源、北海道と中国との交流についても紹介し、北海道と中国の交流発展への期待を述べました。

（国際部国際連携課）



基調講演する名和総長



ボゴール農業大学ジョブフェア2017への参加とインドネシアリエゾンオフィス開設

国際連携機構と農学研究院は、5月13日（土）・14日（日）にインドネシアのボゴール農業大学で開催された「ボゴール農業大学ジョブフェア2017」に参加しました。

本フェアはインドネシア国内外から約70の企業、大学等が参加してそれぞれのブースを設置し、ボゴール農業大学をはじめとするインドネシアの学生と教職員等に直接、就職や進学に関する説明を行うもので、本学からは農学研究院の岩渕和則教授をはじめ3名の教職員と国際部より1名の職員が参加しました。

日本から参加した教育機関は本学と奈良先端科学技術大学院大学のみでしたが、多くの学生等がブースを訪れて、本学への留学や研究交流の話に熱心に聞き入るなど、日本との交流に関

する関心の高さがうかがえました。

また、教育研究プロジェクトや卒業生ネットワーク等を通じた連携を活用した新しい形態の海外オフィスとして、本学農学研究院を責任部局とし、インドネシアのボゴール農業大学内にリエゾンオフィスを開設しました。

オフィスはボゴール農業大学内でも学生が多く集まる利便性の高い場所に設置され、会議スペースや広報資料等

を配架する設備があり、本学の広報や教育研究交流の拠点として利用できるものとなっています。

ジョブフェアに参加した本学教職員の4名は、本学同窓生のハニー・C. ウィジャヤ ボゴール農業大学教授の案内でオフィス視察を行いました。

（国際連携機構、農学院・農学研究院・農学部）



ジョブフェアの本学ブースの様子



インドネシアリエゾンオフィス前での記念撮影

北大フロンティア基金

北大フロンティア基金は、本学の創基130年を機に、教育研究の一層の充実を図り、これまで以上に自主性・自立性を發揮して大学としての使命を果たすため、平成18年10月に創設しました。

募金目標額は50億円です。奨学金制度の充実や留学生への支援などの学生支援を中心に、研究支援、学部等支援など様々な事業を行っており、期限を付さない、息の長い募金活動をするとしています。

皆様には基金の趣旨にご賛同いただき、ご協力をお願いします。

北大フロンティア基金情報

基金累計額（5月31日現在）

20,383件 4,155,838,564円

5月のご寄附状況

法人等1社、個人112名の方々から3,931,000円のご寄附を賜りました。

そのご厚志に対しまして感謝を申し上げますとともに、同意をいただいている方々のご芳名、銘板の掲示、感謝状の贈呈について掲載させていただきます。（五十音別・敬称略）

寄附者ご芳名（法人等）

柏楊印刷株式会社

寄附者ご芳名（個人）

合川 正幸	浅野 賢二	阿部 修	天野 圭一	荒木 利和	五十嵐 毅	石川 裕一	板本 孝治
入澤 秀次	沖本 憲吾	奥山 耕也	小澤 勝光	小内 透	小野塚憲仁	小畑 誠	小原 大和
改正 善彦	埴山 雅秀	葛西 崇	嘉藤 好彦	金川 眞行	金子 英司	河本 充司	上林 一男
北村 彰浩	清田 典宏	倉見 知樹	小林 真也	近藤 繁俊	斉藤 久	齋藤 弘明	坂川 博志
桜井 謙介	佐々木 弘	佐藤 正壽	澤井 一彦	三升畑元基	塩谷 正貴	柴田 勲	清水 智之
霜山美和子	杉原 平樹	須田 力	瀬名波栄潤	高木 康里	高田 史朗	高野不二人	高橋 英樹
高橋 弘道	橘 雅洋	田中 秀佳	土家 琢磨	角田 郁子	寺澤 睦	寺島 貴志	豊田 威信
二宮 貴子	早川 猛	林 幸一	早野 亮	福地 光男	法邑 正人	松永 聖弘	南 勝
宮坂 和男	村田 秋子	望月 恒子	本谷美津子	森川 隆	山内 隆嗣	山岸 善吾	山森 哲也
横倉 隆夫	吉田 広志	渡邊伸一郎					

銘板の掲示（20万円以上のご寄附）

（個人）

小林 真也、高橋 英樹、南 勝、宮坂 和男

感謝状の贈呈

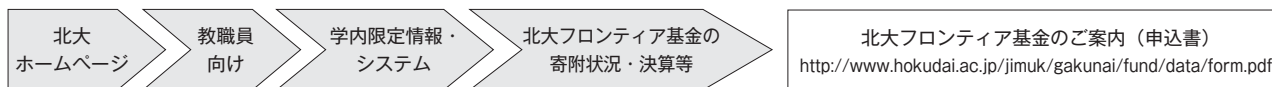


齋藤和雄 様（平成29年5月18日）

ご寄附のお申し込み方法

①給与からの引き落とし

申込書は、本学ホームページの「学内限定情報・システム」からダウンロードし、ご記入の上基金事務室に提出してください。



②郵便局または銀行への振り込み

基金事務室にご連絡ください。払込取扱票をお渡しします。

③現金でのご寄附

寄附申込書に現金を添えて、事務局財務部経理課収入担当にご持参ください。申込書は、本学ホームページから上記①の要領でダウンロードしてご記入いただくか、各部局事務担当及び事務局財務部経理課収入担当にご用意していますので、ご利用ください。

④クレジットカードでのご寄附

北大フロンティア基金ホームページ（<http://www.hokudai.ac.jp/fund/form.html>）のクレジットカード寄附申込フォームから申込をお願いします。

北大フロンティア基金に関する問い合わせ 基金事務室（事務局・学内電話 2017）

（総務企画部広報課）

新渡戸スクール入校式を開催

大学院特別教育プログラム新渡戸スクールの入校式を、5月13日（土）に高等教育推進機構N1講義室において開催しました。

本年度は、新渡戸スクール基礎プログラムの3期生及び新たに開講した上級プログラムの1期生が新渡戸スクールに入校しました。いずれも厳正な選考の結果、基礎プログラムは、15研究科・学院等に所属する116名の入校希望者から114名を選抜し、そのうち104名が入校し、上級プログラムは、14研究科・学院等から33名の入校希望者があり、入校を許可された25名が入校しました。

入校式には、長谷川晃新渡戸スクール校長代理、石山 喬校友会エルム会長（日本軽金属ホールディングス株式

会社代表取締役会長）をはじめ、理事、研究科長・学院長等が出席するとともに、基礎プログラム及び上級プログラム入校生が出席しました。

入校式では、はじめに長谷川校長代理から、「新入校生の新渡戸スクールにおける学びが有意義なものとなること」「新渡戸スクールにおける経験をもとに、本学と世界をつなぐネットワークのハブとなり、国際社会の発展に寄与する指導的・中核的な人材となることを願う」との挨拶がありました。

続いて、来賓の石山校友会エルム会長から、「今日のグローバル化した社会において、スクール生が今後世界のリーダーとして活躍することを期待する」との激励のメッセージをいただき

ました。

最後に、入校生代表挨拶として、基礎プログラム入校生の清水菜央さん、及び上級プログラム入校生のニャンベ・シコボ・ポーリンさんが挨拶を行い、今後の新渡戸スクールにおける修学への期待や将来の目標等について抱負を述べました。

（学務部教育推進課）



長谷川新渡戸スクール校長代理の挨拶



石山校友会エルム会長による来賓挨拶



基礎プログラム入校生代表挨拶



上級プログラム入校生代表挨拶

札幌キャンパスで第14回「キャンパス・クリーン・デー」を実施

全学一斉の構内清掃作業「キャンパス・クリーン・デー」を、5月18日（木）に実施しました。穏やかな晴天のなか、学生、教職員、構内工事関係者等ボランティアを含めて、約3,400名の参加がありました。

事務局本部においては、はじめに名和豊春総長から挨拶があり、引き続き清掃作業を開始しました。収集されたごみは決められた分類毎に分別し廃棄処分としました。

今年で14回目を迎えたキャンパス・クリーン・デーは、札幌キャンパス内では一大行事として認知されており、今後も継続して行う予定としていま

す。来年以降につきましても、多くの方々にご協力をいただきますようお願いいたします。

環境に対する意識の向上及び皆様のご協力により、今年の産業廃棄物（金属やプラスチックの混合物）の収集量

は昨年に比べ約1割減少しています。ご協力ありがとうございました。

（施設部環境配慮促進課）



作業前、開催の挨拶をする名和総長



図書館周辺のごみ拾い作業をする教職員

高等教育研修センターにて各研修等を開催

高等教育推進機構高等教育研修センターでは、4・5月に以下のとおり研修会等を開催しました。

（高等教育推進機構）

平成29年度全学教育科目に係るTA研修会 参加者：335名

開催日：4月4日（火）

開催場所：高等教育推進機構大講堂等

研修概要：全学教育科目を担当する新任TAを対象に、その心構えや役割の理解を深めることを目的として開催。



平成29年度全学教育科目に係るTA研修会

知って活用したい北大の教員支援制度（新任教員向け研修） 参加者：22名

開催日：4月21日（金）

開催場所：高等教育推進機構E209教室

研修概要：新任教員を対象に、北大の教育・研究施設及び制度の利用方法、活用方法を学ぶことを目的として開催。



知って活用したい北大の教員支援制度

ワークショップ「効果的なグループワークのためのファシリテーション入門」 参加者：22名

開催日：5月19日（金）

開催場所：情報教育館4階共用多目的教室（2）

研修概要：授業においてグループワークを効果的に導入するためのファシリテーションの技法について学ぶことを目的として開催。



ワークショップ「効果的なグループワークのためのファシリテーション入門」

講演会「『アクティブラーニング時代』の大人数講義法の基本」 参加者：80名

開催日：5月30日（火）

開催場所：情報教育館3階スタジオ型中講義室

研修概要：大講義室で行う授業において学生とコミュニケーションを取る方法、学生の積極的な講義への参加を促す方法や授業効果を高める方法等を学ぶことを目的として開催。



講演会「『アクティブラーニング時代』の大人数講義法の基本」

国際教育研究センターで「一般日本語」「多文化交流科目」2017年度第1学期を開講

国際連携機構国際教育研究センター（旧留学生センター）では、学内の留学生・外国人研究員を対象とした「一般日本語」と、日本人学生と留学生が共に学ぶ「多文化交流科目」を開講しています。その理念は、留学生と日本人が共に学び、様々な社会的な問題解決に向けた新たな手段・文化を継続的に生み出していけるような、新たな社会構築のための人材を養成することです。そのため、「多文化交流科目」を中核に据えた日本語のレベル別行動目標である「北海道大学日本語スタンダード」を設定し、必要な日本語のスキルを養うための科目展開を行っています。

「一般日本語」は、初級科目が「初級文法」4レベル、「初級口頭表現」2レベル、「初級漢字語彙」非漢字圏・漢字圏向け各2レベル、中級科目

が「やりとり」「表現」「理解」の3技能について各3レベル、上級科目は「やりとり」「表現」「理解」の3技能について「ディベート」「プレゼンテーション」「日本社会探究」など内容別に13科目、合計61科目を開講しています。また、上級科目である「ビジネス日本語」は学部留学生も対象としており、キャリアセンターの協力のもと就職支援を行っています。「多文化交流科目」においては、留学生・日本人学生を対象として日本語を使ったアクティブ・ラーニングを行い、「アカデミック・プレゼンテーション」「日本語のバリエーション」「文化としての日本マンガ」など11科目を提供しています。

「一般日本語」は、研究生・大学院生・特別聴講学生・現代日本学プログラム生・日本語日本文化研修生・

HUSTEPなど多様な学生が学んでおり、研究留学生の日本語支援・現代日本学プログラムの推進・協定大学からの学生の研修など多様な役割を担っていると言えます。

2017年度第1学期は、4月11日（火）に春学期が始まり、「一般日本語」は567名の留学生が申請し、複数科目を受講する者が多いため延べ2,929名が履修しています。なお、留学生は10月来日が多く、2016年度第2学期は73科目を提供し620名の留学生が申請、延べ2,007名が履修しました。

国際教育研究センターでは、今後も本学の国際化により一層貢献していきたいと考えています。詳細は、ホームページをご覧ください。

◆<https://www.oia.hokudai.ac.jp/cier/>

（国際連携機構）

■ 部局ニュース

歯学研究院・歯学院が香港大学牙醫學院と部局間交流協定を締結

歯学研究院・歯学院は、5月18日（木）、香港大学牙醫學院と部局間交流協定を締結しました。

香港大学で開催された調印式には、歯学研究院から横山敦郎研究院長、有馬太郎准教授ら4名が赴き、香港大学からはThomas Flemmig学院長、朱振雄副学院長をはじめ、関係者多数が参加して行われました。

香港大学は、QS World University Rankings by Subject 2017の歯学分野で、世界第1位にランクされており、世界をリードする研究と優れた教育で多くの優秀な人材を世界に送り出しています。

昨年10月に32名の香港大学歯学部学生を受け入れ、北海道大学病院歯科診療センター、歯学部学生実習や講義風

景の見学、留学生事情の説明など、本学教員や学生との交流行事を開催したことが契機となり、本協定の締結に至りました。

今年度は4名の歯学部学生（5年生）を受け入れ、昨年度とは異なったプログラムで1週間、研修を行いました。

調印式でFlemmig学院長は、協定締結は新たな関係の始まりであり、両校のこれからの交流発展を願う旨述べられました。今後は、本協定に基づき、国際共同研究の実施や教育研究における交流連携が一層推進されることが期待されます。

（歯学院・歯学研究院・歯学部）



調印後の横山研究院長（右）とFlemmig学院長



調印式参加者の集合写真

保健科学研究院が岩見沢市と連携協定を締結

保健科学研究院及び岩見沢市は、健康分野で相互に協力し、新たな健康科学を創造し、地方創生に貢献することを目的として、5月31日（水）に連携協定を締結しました。

当日は、岩見沢市の「いわみざわ健康ひろば」で協定の調印式が行われ、保健科学研究院の齋藤 健研究院長、岩見沢市の松野 哲市長が協定書に署名しました。

調印式では、松野市長が「中長期的に健康分野での協力を進めていくための第一歩」と抱負を述べられ、齋藤研究院長からは「介護予防や認知症、医療分析等で連携し、健康づくりに役立てたい」と発言がありました。

今回の協定締結により、本研究院で

は、岩見沢市を研究フィールドとした健康科学分野における様々な研究を行い、その研究成果をもとに、岩見沢市の各種健康施策の企画立案に協力していくことを目指しています。

また、本研究院の小笠原克彦教授及び鈴木哲平特任助教が中心となって推進してきた産学官連携による保健科学分野の研究をさらに進めていくなかで、本研究院と岩見沢市が、今後ますます教育・研究及び地域貢献を推進していくことが期待されます。

（保健科学院・保健科学研究院）



協定書への署名の様子



調印後の齋藤研究院長（左）と松野市長

函館キャンパスで「春のキャンパス一斉清掃」を実施

5月17日（水）に、函館キャンパスにおいて「春のキャンパス一斉清掃」を実施しました。当日は晴天にも恵まれ、絶好の清掃日和となり、函館キャンパス構内とその周辺の清掃を行うことができ、大変きれいになりました。参加人数は、学生・教職員を合わせて約250名となり、多くの方が参加しま

した。

収集されたごみ等は、一般ごみ、産業廃棄物（金属やプラスチックの混合物）、木の枝等を合わせて約4 m³になりました。

函館キャンパスでは毎年、春と秋の年2回、キャンパス一斉清掃を行っており、次回は9月頃を予定していま

す。

これからも環境美化活動を推進し、きれいなキャンパスを目指します。ご協力ありがとうございました。

（水産科学院・水産科学研究院・水産学部）



協力し合いながらの清掃作業



清掃を行う学生



清掃を行う職員

経済学院・会計専門職大学院と経済学部で北海道財務局特別講演会を開催

経済学院・会計専門職大学院と経済学部では、北海道財務局理財部次長の佐藤祥悦氏による「財政の持続可能性の確保に向けて～人口減少局面での経済政策・成長戦略とは～」と題する特別講演会を、5月10日（水）に文系講義棟1番教室において開催しました。当日は、ほぼすべての席が埋まり用意した資料が不足するほど盛況で、参加した学生は真剣に話に耳を傾けていました。

講演では、まず、我が国における人口構造の変化にともなって生じている、経済・財政上の様々な問題について説明がありました。医療費や年金などの社会保障関連負担増の問題を解決するために、具体的にどのような政策が実行されているのかについて、事例を交えながらわかりやすく解説されていました。

また、現在行われている成長戦略を取り上げ、これまでの成果や今後の見通しや方向性についても具体的に説明されました。豊富なデータを用いて、道内で実際に行われている取り組み事例の紹介を交えたお話は、聴講した学生に日頃の講義内容のよりよい理解を促すものであったように思います。

このような講演会は、学生が現実の経済・社会問題に興味をもち、真剣に社会の在り方を考える一助となること

から、会計専門職大学院及び経済学部では、今後も北海道財務局との連携を密にして開催を続けていきたいと考えています。

（経済学院・経済学研究院・経済学部）



熱心に講演を聴く学生



講演する佐藤財務局理財部次長

経済学院・経済学研究院・経済学部でFD研修を開催

経済学院・経済学研究院・経済学部では、様々なハラスメント問題への対応を考えるため、5月11日（木）に経済学研究院会議室において、ファカルティ・ディベロップメント（FD）研修会を開催しました。

講師としてハラスメント相談室に所属する築田美抄専門相談員を招き、「ハラスメントについて」と題して講演がありました。築田相談員は精神保健福祉士の資格を持っており、これまでに公的機関勤務の経験を持っています。

講演では、「どのような事例がハラスメントに該当するのか」の判断基準について、大学で起こりがちな具体例を挙げながら説明がありました。また、事がおきた時の本学における相談窓口とその体制、ハラスメントとは無縁であるための心構えの秘訣につい

て、簡潔かつ分かりやすく講演が進められました。

参加した45名の教職員は熱心に講演を聴き、大学におけるハラスメントの対応と予防について多くを学ぶことができました。また講演後は数名の参加者から質問があがり、「大声での叱責」はハラスメントにあたるのか否か、相手から不快な対応を受けた場合、どのように応じることが望ましいのかといった、コミュニケーションの



活発に議論を交わす教職員

取り方に関する質問が寄せられました。

今後もこのような研修会等を開催していくことによって、様々なハラスメントの防止に真摯に向き合い、充実した経済研究環境の構築に努めていきたいと考えています。

（経済学院・経済学研究院・経済学部）



講演する築田専門相談員

会計専門職大学院で日本内部監査協会と共催セミナーを開催

経済学院・会計専門職大学院では、5月30日（火）に、学術交流会館講堂において「コーポレートガバナンスと内部監査の可能性」を全体テーマとして、一般社団法人日本内部監査協会との第10回共催セミナーを開催しました（後援：札幌証券取引所）。

セミナーでは、冒頭、札幌証券取引所専務理事の鳥居克広氏より、10回目の開催並びに日本内部監査協会創立60周年への祝辞が述べられました。

今回のセミナーは、財務省北海道財務局理財部長の米澤裕樹氏、リコーリース株式会社社外監査役の百武直樹氏、並びに会計専門職大学院の蟹江章教授による3つの講演によって構成されました。

はじめに、蟹江教授は、「コーポレートガバナンスにおける内部監査～

執行か監督か～」というテーマで、大会社におけるコーポレートガバナンス体制の下で、内部監査が果たすべき役割・機能についての考え方を述べました。今後、内部監査は、業務執行責任者による責任の遂行状況を監査することで、取締役会というガバナンス機関による業務執行の監督機能を支援するという役割を果たしていくことが望ましいとの見解を示しました。

続いて、米澤氏が、「コーポレートガバナンスと金融監督を巡る最近の動向と課題」と題して講演されました。コーポレートガバナンスの重要性を経済学や監査論の観点から説明された後に、コーポレートガバナンスの強化に向けた政府の取り組みについて、最新のデータを交えて紹介されました。また、日本の銀行における課題を、事例

を用いてわかりやすく指摘するとともに、課題の解決に向けた施策を紹介されました。

最後に、百武氏が、「監査役視点での内部監査部門との連携」と題して講演されました。まず、近年発生した企業不祥事とこれに対応するためのコーポレートガバナンス体制の強化の状況について説明されました。その上で、キリングroupにおける内部監査の体制や内部監査を効果的に実施するための取り組みについて、特に監査役との連携に焦点を絞って詳細に紹介されました。

今回のセミナーには、内部監査の実務者や本学の学生、道外からの50名余りを合わせて200名を超える参加者があり、内部監査が、健全な会社経営のためにどのような役割・機能を果たす

べきかについて考える大変良い機会となりました。

会計専門職大学院では、今後もこうした催しを通じて、地域社会における

会計・監査実務の発展に貢献していきたいと考えています。

(経済学院・経済学研究院・経済学部)



講演する財務省北海道財務局
理財部長の米澤氏



講演するリコーリース株式会社
社外監査役の百武氏



熱心に講演を聞く参加者

獣医学部で「地方自治体等合同就職説明会」を開催

5月18日(木)、獣医学部4～6年生を中心に、本学部・学院の学生を対象とした「地方自治体等合同就職説明会」を、獣医学部主催により開催しました。本説明会は、地方自治体等の獣医師職を目指す本学部・学院の学生へ円滑に情報を提供することを目的とし、地方自治体等が個別に来学して実施していた説明会を集約し、平成23年

度より開催しているものです。

本年度で7度目の実施であり、今回は全国各地から過去最高の36の地方自治体・団体の出席をいただきました。当日は学部4～6年生の授業を休講にしたこともあり、学部4年生から博士課程4年生まで54名の学生が個別ブースで熱心に説明を受けました。参加自治体等にも大変好評で、来年以降も実施

してほしい旨要望を受けました。

今後も、より一層のキャリア支援体制の充実・強化を図るため、実施内容等について改めて検討していく予定です。

(獣医学院・獣医学研究院・獣医学部)



熱心に説明を受ける学生



農学研究院で平成29年度第1回FD研修会を開催

農学研究院では、ハラスメント相談室の築田美抄専門相談員を招き、平成29年度第1回FD研修会「ハラスメントを理解して、人間関係の悩みを減らそう!」を5月26日(金)に農学部大講堂にて開催し、教員85名、事務職員4名が参加しました。

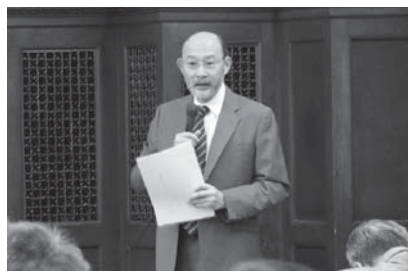
当日は、横田 篤農学研究院長による開会の挨拶の後、築田講師から、まず、大学におけるハラスメントの典型例について紹介がありました。教員と学生間や教職員間などでの典型例から、ハラスメントの加害者や被害者にならないための「予防」の重要性などを学びました。次に、これら典型事例をより普遍化し、ハラスメントに通底する基準について説明がありました。

ハラスメントとは、相手方の意思に反した不適切な言動をすることだけでなく、こうした言動をすることにより、相手方に不快感や不利益を与える「人権侵害行為」であり、学習、研究または労働の環境を悪化させる行為を広く指すものであることが理解できました。さらにこのハラスメント基準を踏まえ、ハラスメントの被害者や加害者にならないための自己分析法が解説されました。ハラスメントの加害者にならないためには、今の社会で不適切とされる考え方を知り、もし自分に当てはまるところがあれば、意識を変えることが重要であること、また自らがハラスメントの被害者になることを防ぐためにも、こうした考え方の理解が重

要であることを学びました。最後にまとめとして、ハラスメントの核心は「強要」(支配)と「蔑み」と言えること、また、相手に「断る余地」や「選択肢」を示すと同時に、相手に嫌な思いをさせないという気持ちをこめたコミュニケーションができれば、ハラスメント問題にまでは至り難いということが確認できました。

今回のとても分かりやすい講演で、当研究院教職員のハラスメント問題への理解をより深めることができました。築田講師には、ここに改めて深く感謝申し上げます。

(農学院・農学研究院・農学部)



横田研究院長の挨拶



講師の築田専門相談員



研修会の様子

国際広報メディア・観光学院で平成29年度履修証明プログラム「デスティネーション・マネージャー育成プログラム」がスタート

本学が実施する履修証明プログラムとしては2例目となる「デスティネーション・マネージャー育成プログラム」の開講式を、6月5日(月)に国際広報メディア・観光学院で行いました。開講式では、山田義裕国際広報メディア・観光学院長が挨拶としてプログラム設置の背景や狙い、履修証明プログラム生(以下、プログラム生)への期待を表明した後、カリキュラムの内容などに関するガイダンスやプログラム生の自己紹介などが行われました。

プログラム生は、開講式の後、早速、修士課程の学生とともに「観光創

造特論Ⅰ(観光と社会・文化)」の第1講を受講し、担当の西川克之教授、岡本亮輔准教授の話に真剣な表情で耳を傾けていました。中には学生と立場や年代を超えて議論に花を咲かせるプログラム生もあり、学生にとっても実践経験の豊富なプログラム生との議論は有意義なものとなったようです。

同プログラムは、観光を通じた地方創生を地域において牽引する組織として注目を集めているDMO(デスティネーション・マネジメント・オーガニゼーション)における人材育成プログラムとして開講されたもので、DMO人材育成を掲げた履修証明プログラム

としては日本で初めてのものです。地域資源の発掘から実際の誘客に至るまでの観光地域づくりの各プロセスに関する専門知識を身につけ、地域の現場でこれらを活用できる実践的な技能を有する人材の育成を目的としており、観光創造専攻の正規科目のほかに、航空会社や旅行会社の現役社員による実践講習も含まれているほか、札幌市や登別市におけるフィールド型演習や、道内の旅行会社、宿泊事業者の経営者をゲストに招いた講義など、多彩かつ実践的なカリキュラムになっています。

修了後は、国策として設立が推進さ

れている「日本版DMO候補法人」に加え、今後候補法人への登録を目指す観光関連団体（観光協会、事業者組合、商工会、NPO等）において中核的な役割を担うことが期待されています。また、所定の要件を満たしたプログラム生は履修証明書のほか、国際広

報メディア・観光学院長名で「デスクティネーション・マネージャー」という称号も付与されます。なお、「デスクティネーション・マネージャー」は本学の名で既に登録商標されており（商標登録第5940564号）、道内外の地域における観光振興に取り組む人材に求め

られる実質的な資格として普及することが期待されています。

（国際広報メディア・観光学院、
メディア・コミュニケーション研究院、
観光学高等研究センター）



山田学院長（右から4人目）と受講者7名



山田学院長の言葉に耳を傾ける受講者たち

北方生物圏フィールド科学センターで「植物販売会」を開催

北方生物圏フィールド科学センター生物生産研究農場では、北大祭の開催に合わせて6月1日（木）・2日（金）に植物の販売を行いました。

2日間ともあいにくの曇り空でしたが、販売開始時間前には100名ほど行列ができ、各日1時間のみの販売で、2日間合わせて約600名のお客様が来場されました。今年は草花（22種類）、ハーブ苗（23種類）、野菜苗（23種類）の他に、薬学部薬草園の観葉植物（19種類）を販売し、売り切れにな

る種類が多数ありました。開場の2時間前から並んでいた方からは「北大の苗は他の店舗に比べて、とても安く買えるので毎年楽しみに来ています」など、喜びの声や今後に期待する声が聞かれました。

生物生産研究農場では、体験的な農場実習のカリキュラムの中で、農産物の販売を視野に入れた草花ハーブ苗の育成をプログラムに取り入れています。農場ではこうして育成した苗を実際に販売することによって、農場の教

育・研究活動を知っていただき、学内の方々と交流を進めたいと考えています。

（北方生物圏フィールド科学センター）



販売開始を待つ来場者



園芸実習棟前の販売会場



観葉植物売場



集計・会計・梱包の様子

植物園の夏期開園とオリジナルグッズの販売

北方生物圏フィールド科学センター
耕地圏ステーション植物園では、4月
29日（土・祝）より夏期開園を始め
ました。夏季期間は年中公開している温
室の他に、庭園・博物館・北方民族資
料室・宮部金吾記念館が見学できま
す。当日は天候にも恵まれ、満開に
なったハクモクレンの周りには多くの
来園者が集まっていました。

5月4日（木・祝）の「みどりの
日」には無料開園を行い、初夏を思わ
せる好天の中、3,888人が来園されま
した。見頃を迎えたシラネアオイやエ
ゾヤマザクラの他に、南極観測で活躍

したタロの剥製がある博物館や北方民
族資料室も大変な人気がありました。

またこの度、植物園ではオリジナル
クリアファイルを製作しました。レブ
ンアツモリソウ、フタナミソウ他、エ
ゾオオカミ、博物館本館の4種類で
す。価格は1枚300円、4枚セットで
1,000円です。正門受付前にある券売
機で購入できます。

植物園はこれから高山植物やバラな
どが咲き、美しい季節を迎えます。教
職員や学生は、身分証明書または学生
証を提示すれば無料で入園できますの
で、11月3日（金・祝）までの夏期開

園期間中にぜひご来園ください。

（北方生物圏フィールド科学センター）



新たに設置したグッズ用券売機



満開のハクモクレン



「みどりの日」に賑わう園内



販売を開始した4種類のクリアファイル

大学院授業の一環として学生がミュージアムグッズを開発

大学院の授業「博物館コミュニケーション特論 ミュージアムグッズの開発と評価」（担当：総合博物館・湯浅万紀子教授）の受講生11名が、総合博物館オリジナルのグッズを開発しました。「ぼけっとミュージアム」（ハンドタオル）と「Go-to Museum Tote & Badges」（トートバッグと缶バッジ）です。いずれのグッズも、大学院の授業においてマーケティング調査をもとに検討を重ね、総合博物館を身近に感じていただきたい、そして日常に使用していただけるグッズを開発したいとの学生の思いから、実現しました。

「ぼけっとミュージアム」は、「はかせ」「むし」「さかな」の3種類のハンドタオルです。「はかせ」のモチーフは様々な研究分野の発展に貢献した本学の研究者たちです。総合博物館にはこの研究者たちを紹介する展示があります。「むし」と「さかな」は総合博物館に収蔵されているタイプ標本（学名を定義する際に基準となる貴重な標本）をモチーフにしています。総合博

物館の「はかせ」「むし」「さかな」を散りばめた「ぼけっとミュージアム」には、小さなミュージアムをポケットに入れて持ち歩いていただきたいという学生の思いが込められています。

「Go-to Museum Tote & Badges」は、総合博物館の建物と北海道の動物たちをデザインしたトートバッグに、姉妹製品の缶バッジをお好みに合わせて付けて使用していただきたいという思いから開発されました。描かれた動物の一部は、剥製や骨格標本が総合博物館に展示・収蔵されています。缶バッジの動物の内側には、北海道にちなんだ植物や雪の結晶がデザインされています。

全てのグッズに、総合博物館の教員の監修を受けて学生が執筆した解説も付されています。総合博物館1階のミュージアムショップと、エルムの森ショップで販売しています。多くの方にお手にとってご覧いただきたいと思います。

グッズ開発の授業の様子は、総合博

物館のウェブサイトで紹介しています。

◆<https://www.museum.hokudai.ac.jp/education/museummeister/cat/lesson/communication3/>

（総合博物館）

担当学生：石井香奈・加藤麻奈（生命科学学院）、久保直紀（総合化学院）、坂本一真・田中望羽・手島 駿・豊岡この実・増田彩乃（理学院）、白瀧吏菜（農学院）、杉山和香奈（文学研究科）、田中睦乃（医学研究科）

監修：江田真毅・大原昌宏・河合俊郎・高橋英樹・山下俊介・山本順司（総合博物館）

撮影：藤田良治（高等教育研究機構）

指導：湯浅万紀子（総合博物館）



「ぼけっとミュージアム」
 はかせ・むし・さかな 各500円（税込）



缶バッジ（ヒグマ・オオワシ・タンチョウ・モモンガ・エゾシカ・キタキツネ）
 各200円（税込）



「Go-to Museum Tote & Badges」
 トートバッグ（総合博物館の建物と北海道の動物たち） 800円（税込）

有賀一郎旧蔵資料を大学文書館で受贈

5月11日（木）、有賀典子氏より、有賀一郎氏（1892-1942）の旧蔵資料を大学文書館にご寄贈いただきました。

有賀一郎氏は、1911（明治44）年東北帝国大学農科大学附属大学予科に入學し、1914（大正3）年農学科第一部に進學、同学科を1917（大正6）年に卒業しました。卒業後は、合名会社鈴木商店・米星産業株式会社に勤務し、煙草事業の発展に尽力されました。

この度、ご寄贈いただいた資料は、農学科第一部在學時（1914～1917年）の受講ノートが7冊、大学予科時代に詠まれた和歌が収録されている歌集

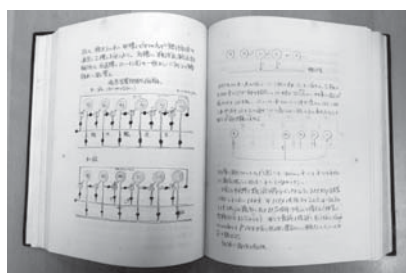
『裡園家集 萩の葉風』（1943年）、戦前期の絵はがき378枚などです。

受講ノートの内容は、「農業経済学」「農政学」「畜産学」「家畜飼養学」「農産製造学」「畜産製造学」「作物学」「土壌学」「応用菌学」「肥料論」「農具論」「土地改良論」「特用作物」「経済学原論」など、農学科の講義を受けて、清書されたものです。大学ノートが1～4冊ずつまとめられて製本されており、当時配布されたプリントも整然と貼付されています。鈴木商店罫紙が所々に挟み込まれていることから、これらの受講ノートは卒業後も参照されていたことがうかがわれます。

また、戦前期の絵はがきは、67枚が書簡として使用されています。同窓生や会社関連の人々から差し出された絵はがきには、台北・大連・京城など、外地の絵柄のものが含まれています。その一方、札幌在住の弟の有賀梧楼氏からは、北海道帝国大学や札幌市街の風景がわかるような絵柄が選ばれて使われています。

今後、ご寄贈いただいた資料は、大学文書館において大切に保管し、閲覧・展示などを通じて広く紹介してまいります。

（大学文書館）



受講ノート「畜産製造学」



戦前の絵はがき（左上から反時計回りに、中央ローン、工学部、大通、豊平橋）

看護週間―「看護の日の夕べ」ほか様々な催しを実施

毎年5月12日（ナイチンゲール生誕日）を含む1週間は「看護週間」として制定されています。今年も本院では、看護の重要性について理解を深めようと様々な催しを行いました。

看護週間である5月8日（月）から12日（金）までの間、病院アメニティホールにて各ナースステーション・センター紹介のポスター展示を行い、医科外来ホールでは看護・くすり・栄養・歯の衛生・運動療法等の相談コーナーを設置しました。

10日（水）にはふれあい看護体験が行われ、札幌市内及び近郊の高校生が看護師とともに、病棟や外来で実際の

看護業務を体験しました。

同日夜にはアメニティホールにて、「第27回看護の日の夕べ」が寶金清博病院長の挨拶で開会し、札幌市立北辰中学校による合唱が行われました。誰もが知っている曲が演目となっており、会場から手拍子が沸き起こるなど大変盛り上がりしました。盛況の中、「第27回看護の日の夕べ」は、佐藤ひとみ看護部長の挨拶で幕を閉じました。このミニコンサートの様子は、本院アメニティホールに設置されたライブカメラを通じて、病室の無料チャンネルでテレビ放映されました。

看護週間にちなんだ催しは、今年で

27回目を迎えますが、「看護」という言葉のもつ重さを再認識する貴重な機会として定着しています。

（北海道大学病院）



札幌市立北辰中学校による合唱



開会の挨拶をする佐藤看護部長



開会の挨拶をする寶金病院長



看護相談コーナー

北海道日本ハムファイターズがひまわり分校の子どもたちと交流

病気と闘う子どもたちを勇気づけるため、北海道日本ハムファイターズの栗山英樹監督と選手によるひまわり分校訪問が、5月29日（月）に行われました。

ひまわり分校への訪問は院内学級時代を通じて11回目を数え、毎年、入院中の子どもたちが大変楽しみにしているイベントです。今年は、栗山監督のほか、大野奨太選手会長、増井浩俊選

手、鍵谷陽平選手、高梨裕稔選手、渡邊 諒選手の6名が来院されました。

監督と選手は、寶金清博病院長、佐藤ひとみ看護部長、門間太輔助教（スポーツ医学診療センター副部長）と懇談を行った後、本院6階の運動療法施設で、ひまわり分校の子どもたちからのインタビューやキャッチボールなどのインタビューやキャッチボールなどを通して交流を深めました。

また、病室から出られない子どもた

ちのために、小児科病棟に足を運び、監督と選手が病室を1室ずつ回って励ましました。子どもたちは一緒に写真を撮ったり、サインを書いてもらったりと、つかの間の楽しいひと時を過ごしました。

（北海道大学病院）



病院長室での懇談



子どもたちからの質問に答える栗山監督



キャッチボールの様子

■ 諸会議の開催状況

役員会（平成29年 5 月10日）

報告事項・超過勤務実績について

- ・会計検査院による会計実地検査の結果について

教育研究評議会（平成29年 5 月17日）

報告事項・戦略的な広報体制の整備について

- ・平成29年度大学の世界展開力強化事業（ロシア）プラットフォーム構築プログラムへの申請書提出について
- ・平成29年度国立大学法人機能強化促進費（補助金）の交付内定について

役員会（平成25年 5 月23日）

議 案・クロスアポイントメントの適用について

報告事項・平成28年度 資金の運用状況について

※規程の制定、改廃については、「学内規程」欄に掲載しています。

■ 学内規程

国立大学法人北海道大学ハラスメント防止規程の一部を改正する規程

（平成29年 5 月22日海大達第164号）

国立大学法人北海道大学職員兼業規程の一部を改正する規程

（平成29年 5 月22日海大達第165号）

国立大学法人北海道大学における公益通報の処理及び公益通報者の保護等に関する規程の一部を改正する規程

（平成29年 5 月22日海大達第166号）

国立大学法人北海道大学コンプライアンス基本規程の一部を改正する規程

（平成29年 5 月22日海大達第167号）

国立大学法人北海道大学安全衛生管理規程の一部を改正する規程

（平成29年 5 月22日海大達第168号）

国立大学法人北海道大学リスク管理規程の一部を改正する規程

（平成29年 5 月22日海大達第169号）

国立大学法人北海道大学災害等危機対策規程の一部を改正する規程

（平成29年 5 月22日海大達第170号）

国立大学法人北海道大学文書処理規程の一部を改正する規程

（平成29年 5 月22日海大達第171号）

国立大学法人北海道大学法人文書管理規程の一部を改正する規程

（平成29年 5 月22日海大達第172号）

国立大学法人北海道大学情報公開規程の一部を改正する規程

（平成29年 5 月22日海大達第173号）

国立大学法人北海道大学個人情報管理規程の一部を改正する規程

（平成29年 5 月22日海大達第174号）

国立大学法人北海道大学における個人情報の開示等に関する規程の一部を改正する規程

(平成29年5月22日海大達第175号)

国立大学法人北海道大学ソフトウェア資産管理規程の一部を改正する規程

(平成29年5月22日海大達第176号)

国立大学法人北海道大学情報セキュリティ対策規程の一部を改正する規程

(平成29年5月22日海大達第177号)

国立大学法人北海道大学旅費規程の一部を改正する規程

(平成29年5月22日海大達第178号)

国立大学法人北海道大学入構車両規程の一部を改正する規程

(平成29年5月22日海大達第179号)

国立大学法人北海道大学内部監査規程の一部を改正する規程

(平成29年5月22日海大達第180号)

国立大学法人北海道大学利益相反マネジメント規程の一部を改正する規程

(平成29年5月22日海大達第181号)

本年4月1日付けで、本学に政策調整室を設置したことに伴い、所要の改正を行ったものです。

表敬訪問

海外

年月日	来 訪 者	来 訪 目 的
29. 5.18	オタゴ大学（ニュージーランド）Richard Blaikie 副学長	大学間協定調印式及び両大学の交流に関する懇談
29. 5.30	Jukka Reino Siukosaari 駐日フィンランド共和国大使	両国の交流に関する懇談
29. 6.1	モンクット王ラカバン工科大学（タイ）Nida Larpsrisawad 学部長アドバイザー	両大学の交流に関する懇談



オタゴ大学（ニュージーランド）
Richard Blaikie 副学長（前列中央）



Jukka Reino Siukosaari
駐日フィンランド共和国大使（右）



モンクット王ラカバン工科大学（タイ）
Nida Larpsrisawad 学部長アドバイザー（中央左）

（国際部国際連携課）

■人事

平成29年5月1日付発令

新 職 名（発令事項）	氏 名	旧 職 名（現職名）
【経営協議会委員】 （期間：平成31年4月30日まで） （期間：平成31年4月30日まで） （期間：平成31年4月30日まで）	秋 元 克 広 浅 香 正 博 土 屋 定 之	札幌市長 北海道医療大学学長 文部科学省顧問

平成29年5月19日付発令

新 職 名（発令事項）	氏 名	旧 職 名（現職名）
【係員】 （辞職）	石 田 千 織	医学系事務部総務課

平成29年5月31日付発令

新 職 名（発令事項）	氏 名	旧 職 名（現職名）
【助教】 （任期満了）	有 木 宏 美	大学院医学研究院助教
【技術職員等】 （辞職）	蘆 原 操 希 池 田 奈津美 大 谷 晶 子 白 野 秋 季	北海道大学病院看護部看護師 北海道大学病院看護部看護師 北海道大学病院看護部看護師 北海道大学病院看護部看護師

平成29年6月1日付発令

新 職 名（発令事項）	氏 名	旧 職 名（現職名）
【准教授】 大学院水産科学研究院准教授 大学院先端生命科学研究院准教授 国際連携研究教育局・大学院医学研究院准教授	芳 村 毅 尾 瀬 農 之 津 田 真寿美	採用 大学院薬学研究院准教授 国際連携研究教育局・大学院医学研究院講師
【講師】 保健センター講師	藤 岡 大 輔	採用
【専門職（特定）】 情報環境推進本部特定専門職	片 桐 弘 之	採用

訃報

名誉教授 須田 勝彦 氏
(享年71歳)



名誉教授 須田勝彦先生は平成29年4月25日に逝去されました。ここに先生の生前の功績を偲び、謹んで哀悼の意を表します。

先生は、昭和44年3月北海道大学教育学部を卒業、同46年3月同大学院教育学研究科修士課程を修了され、同49年8月北海道大学助手（教育学部、後に改組により大学院教育学研究院）として着任されました。その後、昭和60年5月助教授、平成6年4月には教授に昇任され、同21年3月に定年退職されるまで、本学の教育、教職課程における研究・教育活動において、学問的に誠実に、温かく学生達に接し、惜しみない努力を払われました。

研究分野は教育方法学で、「教科を超えた教育方法学は教科の内部にある」という立場から、主に算数・数学教育の領域において、楽しい授業を成立させる条件を解明しようと、具体的な指導プログラムを構成し、実験授業

によって検証するという実証的研究を進められました。さらに、算数・数学教育の歴史的－社会的な現実の中から、「学問としての数学を教える」という歴史的な発展の方向性あるいは法則性の客観的存在を明らかにすべく、算数・数学教育に関して、これまでに与えられた諸々の意見・主張や、報告された諸事実を位置づけ、説明する研究を行いました。

また、数学的概念の形成に関する研究は、狭い意味での数学だけでなく、それを取り巻く数学論、あるいは数学をめぐる認識論的な諸研究を足がかりに進めなければならない、としました。遠山 啓らが明確な教育内容構成論上の主張として提唱した「量にもとづく数学教育」は、まだその確立の緒に就いたに過ぎないとして、量の概念自体を解明する必要性を指摘したうえで、内包量指導の研究を中心的課題に設定し、それまでの諸研究の問題点を検討することを通して新しい指導過程を提出しました。さらに、遠山 啓らが開拓した「量の理論」及びその延長上の問題として、数概念が量の概念から導かれること、あるいは四則演算の方法が量的事実に対応して説明されることなどを具体的に示すことを課題としました。しかし、須田先生たちが面積・乗法・微積分の指導過程の研究を展開していくと、そこには収まりきら

ない問題群が立ち現れました。研究課題を量から解析学の領域へ進める、あるいは研究課題を幾何学や代数学の領域の中に設定するに従って、「面積」の指導プログラム作成においてヒルベルトの「幾何学の基礎」を主な理論的指針として用いたことに見られるように、大きくは公理的接近方法によって、いかなる数学的性質を他のいかなる数学的諸性質との関連において、教育内容として設定すべきかを洗い出すこととしたのです。

須田先生は、平成2年度から約20年、北海道教育学会の事務局長を務め、学会の運営を支えました。また、日本教育方法学会・日本カリキュラム学会・日本教育学会の会員として、全国的な教育方法学・カリキュラム研究・教育学の発展に大きく寄与し、特に、日本教育方法学会では、平成12～27年度まで理事や常任理事を歴任されました。

以上のように、須田先生は、教育学分野において多くの有為の人材を育て、学術の発展に顕著な役割を果たされました。

須田勝彦先生の長年にわたる貢献にあらためて感謝し、ご冥福を心より祈念します。

(教育学院・教育学研究院・教育学部)

名誉教授 ^{いし い}石井 ^{くによし}邦宜 氏
(享年76歳)



名誉教授 石井邦宜先生が平成29年4月29日に逝去されました。

先生は、昭和39年4月北海道大学工学部を卒業後、同年4月同大学院工学研究科冶金工学専攻修士課程に入学、同41年3月同課程を修了されました。昭和41年4月に北海道大学工学部講師に採用、同46年4月に助教授に昇任された後、同63年3月「高炉内反応に関する基礎的研究」によって工学博士の学位を授与され、同64年1月北海道大

学工学部教授に昇任、金属工学科金属工学第二講座を担当され、平成17年3月に退官されるまで、学生の教育と金属工学専攻及び金属工学科の発展に尽力されました。

研究面では、いち早くコンピューター制御・計測技術を鉄鋼製精錬研究の分野に導入され、「X線透過装置付き昇温荷重還元軟化溶融溶け落ち装置」の開発によって、鉄鉱石を1550℃まで昇温しながら還元し、その挙動を直接観察することを可能にしました。さらに、数々の新しい知見を得ることで、鉄鋼製造分野の発展に大きく寄与されました。

また、これらの高度な実験技術を背景に、高温超伝導酸化物の組織制御、アルゴン－アークプラズマ溶解時の温度、蒸気圧分布の分光学的測定、無重力環境利用による溶融酸化物の物性研究など、広範な研究分野で活躍され、

科学技術の発展に貢献されました。

このような活発な研究活動の結果、昭和63年には日本鉄鋼協会から西山記念賞、平成3年には依論文賞、同8年、同14年には澤村論文賞、同10年には学術功績賞等、数々の賞を授与されました。

学外では、日本鉄鋼協会副会長、同北海道支部長、同高温プロセス部会部会長、同環境・エネルギー工学部会部会長、文部省科学技術・学術審議会専門委員、北海道TLO株式会社取締役、日本学術振興会製鉄第54委員会委員長等を務められるなど、学術研究の推進発展に大きく貢献されました。

先生の長年にわたるご貢献に改めて感謝し、ここに謹んで心よりご冥福をお祈り申し上げます。

(工学院・工学研究院・工学部)

名誉教授 ^{は た の}羽田 ^{むつお}野 六男 氏
(享年85歳)



名誉教授 羽田野六男先生が平成29年5月15日にご逝去されました。ここに謹んで哀悼の意を表します。

先生は函館市にお生まれになり、昭和31年3月に北海道大学水産学部水産製造学科を卒業後、同大学院水産学研究科水産学専攻修士課程を修了し、財団法人水産科学研究奨励会研究助手を経て、同35年3月北海道大学水産学部助手に採用されました。昭和49年1月東京大学より農学博士の学位を授与され、同50年7月北海道大学水産学部助

教授、同61年4月同教授に昇任され、水産食品学科食品化学第一講座を担当、平成8年3月停年により退官されました。その後、平成9年4月北海道女子大学（後の北海道浅井学園大学、現 北翔大学）人間福祉学部教授に採用され、同18年5月まで務められました。また、平成17年4月から同24年5月まで社会福祉法人函館カトリック社会福祉協会理事長を務められました。この間、北海道大学評議員、北海道大学水産学部水産食品学科長を歴任され、北海道女子大学・北海道浅井学園大学においては、人間福祉学部長、大学院人間福祉学研究科長、副学長を務められる等、学校教育や社会福祉の面においても大きく貢献されました。

先生のご専門は水産食品学ですが、ナガズカ魚卵の毒成分の構造解析を世界に先駆けて行われ、続いて多獲性魚類の高度利用に関する研究、特に魚肉タンパク質の機能性に関する研究を行

い、新たな機能特性を明らかにされました。さらに、秋サケの肉質の劣化機構を解明するとともに、網羅的にサケ科魚類可食部の生化学的データを取得して、サケ科魚類の有効利用に大いに貢献されました。また、水産脂質の特性や機能性、海藻の健康機能特性に関する研究も精力的に行い、水産食品の実証に基づいた有用機能の解明に尽力されました。このように、先生は学問的基礎から実学、さらには現場への応用と幅広く研究を重ね、この間多くの後進を育てられ、そのご功績は誠に大きなものです。

先生の長年にわたるご貢献に改めて感謝し、ここに謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

(水産科学院・水産科学研究院・水産学部)

資料

在籍学生数（平成29年5月1日現在）

- （注）1（ ）内は女子の内数、〈 〉内は女子の比率
 2〔 〕内は2年次編入学定員で外数
 3〔 〕内は3年次編入学定員で外数（工学部は高専卒業者の受入れ）
 4以下の表は、すべて外国人留学生数を含む

学部

学部等名	入学定員	在籍者数							聴講生	科目等履修生	研究生	特別聴講学生	合計
		1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	計					
文学部	185人〔人〕		186人	194人	239人	一人	一人	619人 (277(44.7%))	11人	6人	33人	70人	739人 (368(49.8%))
教育学部	50〔10〕		51	64	77	—	—	192 (91(47.4))	1	16	9	5	223 (110(49.3))
法学部	200〔10〕〔10〕		214	212	253	—	—	679 (221(32.5))	6	4		11	700 (231(33.0))
経済学部	190		208	188	232	—	—	628 (151(24.0))			23	14	665 (173(26.0))
理学部	300		313	322	363	—	—	998 (240(24.0))	1	5		8	1,012 (244(24.1))
医学部	287〔5〕		298	314	306	108	125	1,151 (524(45.5))				9	1,160 (527(45.4))
歯学部	53		55	52	56	48	55	266 (108(40.6))			2		268 (108(40.3))
薬学部	80		81	86	81	27	29	304 (131(43.1))		5			309 (132(42.7))
工学部	670〔10〕		704	727	862	—	—	2,293 (322(14.0))	1	1		25	2,320 (330(14.2))
農学部	215		227	228	245	—	—	700 (267(38.1))	4	2	1	8	715 (276(38.6))
獣医学部	40		41	43	49	38	41	212 (85(40.1))				1	213 (86(40.4))
水産学部	215		218	216	231	—	—	665 (149(22.4))			1	3	669 (151(22.6))
現代日本学 プログラム課程	—		17	9		—	—	26 (21(80.8))					26 (21(80.8))
総合教育部	—	2,703	—	—	—	—	—	2,703 (763(28.2))				213	2,916 (888(30.5))
合計	2,485〔15〕〔30〕	2,703	2,613	2,655	2,994	221	250	11,436 (3,350(29.3))	24	39	69	367	11,935 (3,645(30.5))

※学部の入学定員は、学生が第2年次に進級した場合の入学定員である

研究所等

研究所等名	研究生	特別研究学生	日本語・日本文化 研修生	日本語研修生	合計
観光学高等研究センター	2人	一人	一人	一人	2人(2(100.0%))
低温科学研究所	2				2(0(0.0))
電子科学研究所	1	1			2(0(0.0))
遺伝子病制御研究所	2				2(0(0.0))
触媒科学研究所	2				2(0(0.0))
スラブ・ユーラシア研究センター	2				2(1(50.0))
情報基盤センター	4				4(2(50.0))
国際連携機構			57	12	69(47(68.1))
総合博物館	1				1(1(100.0))
北方生物圏フィールド科学センター	3				3(0(0.0))
合計	19	1	57	12	89(53(59.6))

(注) 法学研究科の専門職学位課程の上段は3年課程、下段は2年課程の学生数

生命科学の博士課程の上段は3年制博士後期課程、下段は4年制博士課程の学生数

■大学院

研究科等名	修士課程（博士前期）				専門職学位課程					博士課程（博士後期及び博士一貫）					聴講生	科目等履修生	研究生	特別聴講学生	特別研究学生	合計	
	入学定員	在籍者数			入学定員	在籍者数				入学定員	在籍者数										
		1年次	2年次	小計		1年次	2年次	3年次	小計		1年次	2年次	3年次	4年次							小計
文学研究科	90人	82人	117人	199人 (101(50.8%))	一人	一人	一人	一人	一人	35人	27人	34人	106人	一人	167人 (84(50.3%))	5人	0人	10人	5人	6人	392人 (205(52.3%))
法学研究科	20	24	21	45 (21(46.7%))	50	18 26	15 24	18 —	101 (24(23.8%))	15	6	4	22	—	32 (11(34.4%))		2	16	9		205 (69(33.7%))
情報科学研究科	177	193	180	373 (41(11.0%))	—	—	—	—	—	42	39	39	56	—	134 (18(13.4%))			12	1	4	524 (62(11.8%))
薬学研究科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—						0 (0(0.0%))
水産科学学院	90	98	119	217 (61(28.1%))	—	—	—	—	—	35	16	15	24	—	55 (16(29.1%))				6		278 (78(28.1%))
水産科学研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			1			1 (0(0.0%))
環境科学院	159	164	158	322 (119(37.0%))	—	—	—	—	—	63	37	27	91	—	155 (57(36.8%))				2		479 (176(36.7%))
地球環境科学研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			9			9 (5(55.6%))
理学院	129	132	149	281 (48(17.1%))	—	—	—	—	—	56	42	45	63	—	150 (27(18.0%))				2		433 (75(17.3%))
理学研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			11			11 (3(27.3%))
農学院	142	169	182	351 (129(36.8%))	—	—	—	—	—	42	42	42	68	—	152 (49(32.2%))				2		505 (179(35.4%))
農学研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			13			13 (4(30.8%))
生命科学学院	132	125	131	256 (98(38.3%))	—	—	—	—	—	46 4	48 6	35 7	58 8	— 6	168 (39(23.2%))				6		430 (140(32.6%))
先端生命科学研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			1			1 (0(0.0%))
教育学院	45	49	49	98 (68(69.4%))	—	—	—	—	—	21	14	17	53	—	84 (45(53.6%))	2			1		185 (116(62.7%))
教育学研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			5			5 (2(40.0%))
国際広報メディア・観光学院	42	44	55	99 (71(71.7%))	—	—	—	—	—	17	10	14	56	—	80 (41(51.3%))	2		4			185 (117(63.2%))
メディア・コミュニケーション研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			22			22 (19(86.4%))
保健科学学院	40	48	52	100 (42(42.0%))	—	—	—	—	—	10	9	10	22	—	41 (17(41.5%))				1		142 (60(42.3%))
保健科学研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			5			5 (4(80.0%))
工学院	326	408	379	787 (111(14.1%))	—	—	—	—	—	69	64	56	70	—	190 (28(14.7%))	1			7	11	996 (148(14.9%))
工学研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			23			23 (4(17.4%))
工学研究科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	4	—	4 (0(0.0%))						4 (0(0.0%))
総合化学学院	129	151	145	296 (59(19.9%))	—	—	—	—	—	38	43	53	60	—	156 (37(23.7%))				1	1	454 (97(21.4%))
経済学院	35	35		35 (21(60.0%))	20	22		—	22 (5(22.7%))	8	12		—	—	12 (5(41.7%))	1					70 (31(44.3%))
経済学研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			2			2 (2(100.0%))
経済学研究科	—	1	42	43 (27(62.8%))	—	1	12	—	13 (2(15.4%))	—		6	12	—	18 (6(33.3%))				2		76 (37(48.7%))
医学院	20	29		29 (13(44.8%))	—	—	—	—	—	90	84				84 (18(21.4%))				1		114 (32(28.1%))
医学研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			2			2 (1(50.0%))
医学研究科	—	2	33	35 (19(54.3%))	—	—	—	—	—	—	10	90	89	172	361 (84(23.3%))			4		2	402 (105(26.1%))
歯学院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	40	21				21 (10(47.6%))						21 (10(47.6%))
歯学研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			9			9 (4(44.4%))
歯学研究科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	38	31	29	99 (37(37.4%))			4			103 (38(36.9%))
獣医学院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	16	12				12 (6(50.0%))						12 (6(50.0%))
獣医学研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			4			4 (1(25.0%))
獣医学研究科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	10	28	16	33	87 (42(48.3%))			2			89 (43(48.3%))
医理工学院	12	15		15 (0(0.0%))	—	—	—	—	—	5	6			—	6 (1(16.7%))						21 (1(4.8%))
国際感染症学院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	12	11			—	11 (4(36.4%))						11 (4(36.4%))
国際食資源学院	15	17		17 (8(47.1%))	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—						17 (8(47.1%))
公共政策学教育部	—	—	—	—	30	40	33	—	73 (24(32.9%))	—	—	—	—	—	—	1	1		1		76 (25(32.9%))
公共政策学連携研究部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			7			7 (5(71.4%))
合計	1603	1786	1812	3598 (1057(29.4%))	100	107	84	18	209 (55(26.3%))	664	570	560	909	240	2279 (682(29.9%))	7	8	162	30	45	6338 (1916(30.2%))

(学務部学務企画課)

平成29年度外国人留学生数（「留学」意外の在留資格の者を含む）

【部局別】

学部等

平成29年 5 月 1 日現在

部 局 名	国 費		外国政府派遣		私 費		合 計
	学士課程	研究生等	学士課程	研究生等	学士課程	研究生等	
文 学 部		1 (1)				100 (79)	101 (80)
教 育 学 部	1 (1)				2 (2)	14 (10)	17 (13)
法 学 部					1	11 (8)	12 (8)
経 済 学 部	1 (1)	2 (2)				35 (20)	38 (23)
理 学 部			1		1	8 (2)	10 (2)
医 学 部	1				2 (1)	9 (3)	12 (4)
歯 学 部							
薬 学 部	1				1		2
工 学 部	25 (2)		9 (4)	5 (2)	12 (3)	17 (5)	68 (16)
農 学 部	2 (1)				3 (1)	8 (7)	13 (9)
獣 医 学 部						1 (1)	1 (1)
水 産 学 部					1 (1)	4 (2)	5 (3)
現代日本学プログラム課程					26 (21)		26 (21)
高等教育推進機構総合教育部	8		3 (1)		30 (16)		41 (17)
合 計	39 (5)	3 (3)	13 (5)	5 (2)	79 (45)	207 (137)	346 (197)

大学院等

部 局 名	国 費				外国政府派遣				私 費				合 計
	修士課程	専門職学位課程	博士課程	研究生等	修士課程	専門職学位課程	博士課程	研究生等	修士課程	専門職学位課程	博士課程	研究生等	
文 学 研 究 科	2 (1)		12 (3)	2 (1)			1 (1)		65 (45)		45 (27)	16 (14)	143 (92)
法 学 研 究 科				1 (1)			2	1	19 (13)		10 (3)	23 (12)	56 (29)
情報科学研究科	1		6 (2)				4 (2)		34 (6)		28 (10)	12 (2)	85 (22)
水産科学研究科	1		4 (1)				2 (2)		11 (7)		13 (6)	6 (1)	37 (17)
環境科学研究科	13 (7)		17 (7)				3 (2)		66 (39)		44 (20)	2	145 (75)
地球環境科学研究科												8 (5)	8 (5)
地理院	5 (1)		12 (2)				1		22 (9)		29 (6)		69 (18)
理学院				1								3 (2)	4 (2)
農学院	15 (10)		31 (15)				2 (1)		22 (15)		40 (15)	1 (1)	111 (57)
生命科学研究所	3		35 (13)	1								6 (2)	7 (2)
先端生命科学研究所							2		14 (6)		14 (4)	4 (2)	72 (25)
教育学院			5 (5)						39 (32)		10 (7)	1 (1)	55 (45)
国際広報メディア・観光学院			5 (4)				1		64 (52)		16 (10)	4 (3)	90 (69)
メディア・コミュニケーション研究院				1 (1)								21 (18)	22 (19)
保健科学研究科			1 (1)						8 (6)		4 (2)	1 (1)	14 (10)
保健科学研究所												3 (3)	3 (3)
工学院	34 (15)		39 (9)				12 (1)	4	63 (16)		36 (9)	11 (8)	199 (58)
工学研究科				3								15 (4)	18 (4)
総合化学院	2		14 (9)		2 (1)		3	1	15 (5)		27 (13)	1 (1)	65 (29)
経済学研究科	3 (1)								36 (24)	1	5 (3)	2 (2)	47 (30)
経済学研究科	1 (1)		3 (1)						23 (17)	4 (2)	5 (3)		36 (24)
経済学研究科												2 (2)	2 (2)
医学院			5 (2)				3 (1)	1 (1)	5 (4)		12 (8)		26 (16)
歯学院									3		5 (2)		8 (2)
歯学研究科			1 (1)								7 (2)	1 (1)	9 (4)
歯学研究科											2 (1)		2 (1)
獣医研究科			26 (13)				2 (1)				18 (13)	1 (1)	47 (28)
獣医研究科			1								3 (2)		4 (2)
獣医研究科												1 (1)	1 (1)
医理工学院											1		1
国際感染症学学			2 (1)								2 (1)		4 (2)
国際食資源学									3 (2)				3 (2)
公共政策学教育部										17 (12)		1	18 (12)
公共政策学連携研究部												7 (5)	7 (5)
低温科学研究所												2	2
電子科学研究所													
触媒科学研究所												2	2
スラブ・ユーラシア研究センター				2 (1)									2 (1)
情報基盤センター												4 (2)	4 (2)
北方生物圏フィールド科学センター				1								2	3
観光学高等研究センター				2 (2)									2 (2)
国際連携機構													
高等教育推進機構													
合 計	80 (36)		219 (89)	14 (6)	2 (1)		38 (11)	7 (1)	512 (298)	22 (14)	376 (167)	166 (95)	1,436 (718)

日本語研修生等

国 際 連 携 機 構	日本語・日本文化研修生			日本語研修生		合 計
	国 費	外国政府派遣	私 費	国 費	私 費	
	17 (13)	2 (2)	38 (28)	12 (4)		69 (47)

外国人留学生総数

学部留学生数	大 学 院 留 学 生			研究生等	日 本 語 研 修 生 日本語・日本文化研修生	留学生総数	外国人学生 （「留学」以外）	留学生及び外国人学生 総 計
	修士課程	専門職学位課程	博士課程					
131 (55)	594 (335)	22 (14)	633 (267)	402 (244)	69 (47)	1,851 (962)	40 (12)	1,891 (974)

* () 内は女子を内数で示す

* 修士課程には博士前期課程を、博士課程には博士後期課程を含む

* 研究生等には特別研究学生及び特別聴講学生を含む

(国際部国際教務課)

平成29年度国別外国人留学生数

平成29年5月1日現在

[illegible]

※ () 内は女子の数で内数

(国際部国際教務課)

平成28年度卒業・修了者の就職等状況一覧

1. 就職等状況

学 部

平成29年5月1日現在

学部 項目	文学部	教育学部	法学部	経済学部	理学部	医学部		歯学部	薬学部		工学部	農学部	獣医学部	水産学部	合 計
	人数(名)	人数(名)	人数(名)	人数(名)	人数(名)	医学科	保健学科	人数(名)	薬科学科(4年制)	薬学科(6年制)	人数(名)	人数(名)	人数(名)	人数(名)	人数(名)
(A) 卒業生数	(98) 189	(29) 59	(63) 206	(57) 201	(67) 292	(28) 103	(121) 186	(11) 38	(12) 50	(16) 30	(101) 702	(76) 223	(14) 39	(49) 192	(742) 2,510
(B) 就職希望者数	(79) 141	(23) 44	(48) 157	(49) 172	(10) 46		(92) 118		(1) 3	(15) 27	(26) 102	(20) 49	(10) 25	(13) 54	(386) 938
(C) 就職者数	(0) (72) (1) 125	(0) (23) (1) 43	(0) (44) (0) 146	(0) (49) (0) 166	(0) (10) (0) 40		(0) (92) (0) 115		(0) (1) (0) 3	(2) (15) (2) 27	(0) (22) (0) 91	(0) (20) (0) 45	(1) (10) (1) 25	(0) (11) (0) 45	(3) (369) (5) 871
うち 道外就職者	(42) 73	(10) 22	(28) 94	(33) 118	(5) 26		(31) 39		(0) 2	(6) 16	(15) 60	(14) 30	(8) 22	(5) 29	(197) 531
うち 有職者			(0) 1												(0) 1
(D) 就職率(%)	(91.1) 88.7	(100.0) 97.7	(91.7) 93.0	(100.0) 96.5	(100.0) 87.0	-	(100.0) 97.5	-	(100.0) 100.0	(100.0) 100.0	(84.6) 89.2	(100.0) 91.8	(100.0) 100.0	(84.6) 83.3	(95.6) 92.9
昨年の就職率(%)	(92.2) 90.0	(100.0) 95.6	(96.6) 94.0	(97.9) 95.4	(75.0) 81.6	-	(100.0) 99.2	-	(50.0) 85.7	(100.0) 100.0	(100.0) 99.0	(96.2) 91.2	(100.0) 92.9	(100.0) 96.4	(96.7) 94.5
(E) 進学者数	(14) (15) (31) 34	(3) (3) (11) 11	(7) (10) (27) 36	(4) (5) (17) 21	(52) (55) (218) 232	(1) (1) (1) 3	(16) (25) (49) 61	(0) (0) (0) 0	(11) (11) (47) 47	(1) (1) (3) 3	(71) (74) (569) 584	(45) (50) (145) 161	(2) (3) (6) 10	(34) (36) (126) 138	(261) (289) (1,250) 1,341
うち 大学院	(14) (15) (31) 34	(3) (3) (11) 11	(7) (9) (27) 35	(4) (5) (17) 21	(52) (55) (218) 232	(1) (1) (1) 3	(16) (22) (49) 58		(11) (11) (47) 47	(1) (1) (3) 3	(71) (74) (569) 583	(45) (50) (145) 161	(2) (3) (6) 10	(34) (36) (126) 138	(261) (285) (1,250) 1,336
うち 大学			(0) (1) (0) 1				(0) (3) (0) 3				(0) (0) (0) 1				(0) (4) (0) 5
うち 就職している者															(0) (0) (0) 0
(F) その他	(11) 30	(3) 5	(9) 24	(3) 14	(2) 20	(27) 100	(4) 10	(11) 38			(5) 27	(6) 17	(1) 4	(2) 9	(84) 298

・A=C+E+F ・D=C÷B×100 ・上段()は、女子で内数/就職率()は、女子の就職率

・就職者数〔 〕は、正規の職員等でないもので内数

・進学者数〔 〕は、本学進学者で内数

・進学者数「うち就職している者〔 〕」は、正規の職員等でないもので内数

◇医学部医学科については、卒業後2年間の研修期間がある

◇歯学部については、卒業後1年間の研修期間がある

◇薬学部は、4年制(薬科学科)と6年制(薬学科)がある

修士課程

研究科(学院) 項目	文学研究科	法学研究科	経済学研究科	医学研究科	情報科学研究科	水産科学院	環境科学院	理学院	農学院	生命科学院	教育学院	国際広域メディア・観光学院	保健科学院	工学院	総合化学院	合 計
	人数(名)	人数(名)	人数(名)	人数(名)	人数(名)	人数(名)	人数(名)	人数(名)	人数(名)	人数(名)	人数(名)	人数(名)	人数(名)	人数(名)	人数(名)	人数(名)
(A) 修了者数	(39) 80	(6) 14	(19) 33	(10) 17	(22) 174	(22) 85	(60) 154	(19) 118	(54) 145	(40) 128	(28) 45	(34) 48	(26) 57	(50) 331	(32) 143	(461) 1,572
(B) 就職希望者数	(20) 40	(5) 9	(8) 18	(7) 11	(17) 146	(21) 80	(43) 120	(13) 80	(45) 121	(33) 93	(18) 28	(25) 36	(21) 45	(45) 302	(26) 115	(347) 1,244
(C) 就職者数	(1) (18) (2) 30	(1) (4) (1) 7	(0) (7) (0) 16	(1) (5) (1) 9	(0) (16) (0) 143	(0) (21) (0) 78	(2) (39) (2) 115	(0) (12) (3) 77	(1) (44) (3) 115	(0) (32) (1) 91	(0) (15) (1) 23	(2) (22) (4) 31	(0) (20) (0) 44	(0) (45) (0) 297	(0) (26) (0) 115	(8) (326) (18) 1,191
うち 道外就職者	(10) 19	(3) 6	(6) 12	(3) 5	(16) 121	(18) 66	(29) 92	(10) 57	(38) 94	(27) 83	(8) 12	(14) 19	(7) 17	(37) 256	(25) 112	(251) 971
うち 有職者	(1) 2		(0) 1	(2) 2			(0) 4				(2) 5	(1) 2	(1) 2	(0) 1		(7) 19
(D) 就職率(%)	(90.0) 75.0	(80.0) 77.8	(87.5) 88.9	(71.4) 81.8	(94.1) 97.9	(100.0) 97.5	(90.7) 95.8	(92.3) 96.3	(97.8) 95.0	(97.0) 97.8	(83.3) 82.1	(88.0) 86.1	(95.2) 97.8	(100.0) 98.3	(100.0) 100.0	(93.9) 95.7
昨年の就職率(%)	(87.0) 83.3	(100.0) 90.9	(100.0) 100.0	(83.3) 92.9	(100.0) 100.0	(96.2) 96.9	(88.9) 93.2	(100.0) 96.5	(86.7) 90.8	(95.8) 95.9	(88.2) 88.9	(69.6) 75.0	(93.8) 97.0	(96.2) 99.3	(100.0) 99.1	(90.8) 95.9
(E) 進学者数	(5) (5) (15) 15	(1) (1) (2) 2	(4) (4) (6) 6	(2) (2) (4) 4	(4) (4) (23) 23	(0) (0) (3) 3	(6) (6) (16) 20	(4) (4) (24) 26	(6) (6) (17) 19	(4) (4) (25) 26	(3) (4) (5) 7	(2) (2) (3) 3	(3) (4) (9) 11	(0) (0) (13) 14	(6) (6) (24) 25	(50) (52) (189) 204
うち 大学院	(5) (5) (15) 15	(1) (1) (2) 2	(4) (4) (6) 6	(2) (2) (4) 4	(4) (4) (23) 23	(0) (0) (3) 3	(6) (6) (16) 20	(4) (4) (24) 26	(6) (6) (17) 19	(4) (4) (25) 26	(3) (4) (5) 7	(2) (2) (3) 3	(3) (4) (9) 11	(0) (0) (13) 14	(6) (6) (24) 25	(50) (52) (189) 204
うち 大学																(0) (0)
うち 就職している者	(0) (1) (0) 1										(0) (0) (0) 1	(0) (1) (0) 6				(0) (2) (0) 8
(F) その他	(16) 35	(1) 5	(8) 11	(3) 4	(2) 8	(1) 4	(15) 19	(3) 15	(4) 11	(4) 11	(9) 15	(10) 14	(2) 2	(5) 20	(0) 3	(83) 177

・A=C+E+F ・D=C÷B×100 ・上段()は、女子で内数/就職率()は、女子の就職率

・就職者数〔 〕は、正規の職員等でないもので内数

・進学者数〔 〕は、本学進学者で内数

・進学者数「うち就職している者〔 〕」は、正規の職員等でないもので内数

専門職大学院

研究科等 項目	法科大学院 (法学研究科)	会計専門職大学院 (経済学研究科)	公共政策大学院 (公共政策学教育部)	合 計
	人数(名)	人数(名)	人数(名)	人数(名)
(A) 修了者数	(11) 45	(2) 12	(13) 43	(26) 100
(B) 就職希望者数	(0) 1	(1) 6	(11) 38	(12) 45
(C) 就職者数	[0] (0) [0] 1	[0] (1) [0] 5	[0] (11) [0] 37	[0] (12) [0] 43
うち 道外就職者	(0) 1	(0) 3	(8) 23	(8) 27
うち 有職者			(1) 6	(1) 6
(D) 就職率(%)	- 100.0	(100.0) 83.3	(100.0) 97.4	(100.0) 95.6
昨年の就職率(%)	(100.0) 100.0	(100.0) 100.0	(83.3) 81.3	(90.9) 90.3
(E) 進学者数	[1] (1) [2] 2	[0] (0) [1] 1	[0] (0) [1] 1	[1] (1) [4] 4
うち 大学院	[1] (1) [2] 2	[0] (0) [1] 1	[0] (0) [1] 1	[1] (1) [4] 4
うち 大学				[0] (0) [0] 0
うち 就職している者				[0] (0) [0] 0
(F) その他	(10) 42	(1) 6	(2) 5	(13) 53

・ A=C+E+F ・ D=C÷B×100 ・ 上段 () は、女子で内数／就職率 () は、女子の就職率

・ 就職者数 [] は、正規の職員等でないもので内数

・ 進学者数 [] は、本学進学者で内数

・ 進学者数「うち就職している者 []」は、正規の職員等でないもので内数

◇法科大学院の (F) その他には、修了後に実施される新司法試験の受験準備者を含む

博士課程

研究科 (学院)	文学 研究科	法学 研究科	経済学 研究科	医学 研究科	歯学 研究科	獣医学 研究科	情報科学 研究科	水産 科学院	環境 科学院	理学院	農学院	生命 科学院*1	教育学院	国際広報 メディア・ 観光学院	保健 科学院	工学院*2	総合 化学院	合 計
	人数(名)	人数(名)	人数(名)	人数(名)	人数(名)	人数(名)	人数(名)	人数(名)	人数(名)	人数(名)	人数(名)	人数(名)	人数(名)	人数(名)	人数(名)	人数(名)	人数(名)	人数(名)
(A) 修了者数	[8] (15) [18] 37	[3] (6) [12] 17	[0] (2) [0] 5	[0] (20) [2] 84	[0] (9) [0] 24	[2] (7) [5] 20	[1] (8) [7] 33	[1] (5) [4] 13	[2] (15) [8] 43	[0] (5) [7] 36	[4] (14) [11] 40	[1] (13) [3] 38	[1] (2) [5] 10	[2] (4) [6] 9	[0] (3) [0] 7	[0] (7) [6] 43	[1] (10) [6] 48	[26] (145) [100] 527
(B) 就職希望者数	(8) 24	(3) 8	(2) 3	(15) 67	(5) 13	(4) 16	(6) 47	(1) 5	(7) 24	(2) 19	(3) 23	(4) 26	(1) 6	(3) 6	(3) 7	(3) 24	(9) 42	(79) 360
(C) 就職者数	[1] (6) [5] 19	[2] (3) [2] 8	[0] (2) [1] 3	[6] (13) [25] 64	[3] (5) [5] 13	[1] (4) [5] 16	[2] (6) [6] 47	(0) (1) [2] 5	[1] (6) [5] 22	[2] (2) [15] 19	(0) (3) [7] 23	[2] (4) [9] 26	[0] (1) [0] 6	(0) (2) [2] 5	(0) (3) [0] 7	(0) (2) [4] 23	[3] (9) [10] 40	[23] (72) [108] 346
うち 道外就職者	(4) 6	(1) 3	(2) 2	(2) 9	(0) 1	(4) 13	(5) 41	(0) 2	(4) 14	(1) 12	(2) 15	(3) 20	(0) 1	(0) 1	(0) 1	(2) 20	(8) 33	(38) 194
うち 有職者	(0) 6	(0) 1	(1) 1	(4) 25	(1) 6	(3) 13	(0) 1	(0) 5	(1) 1	(0) 1	(0) 1	(1) 5	(0) 5	(1) 3	(3) 5	(0) 6	(1) 6	(16) 90
(D) 就職率(%)	(75.0) 79.2	(100.0) 100.0	(100.0) 100.0	(86.7) 95.5	(100.0) 100.0	(100.0) 100.0	(100.0) 100.0	(100.0) 100.0	(85.7) 91.7	(100.0) 100.0	(100.0) 100.0	(100.0) 100.0	(100.0) 100.0	(66.7) 83.3	(100.0) 100.0	(66.7) 95.8	(100.0) 95.2	(91.1) 96.1
昨年の就職率(%)	(83.3) 93.3	(100.0) 100.0	- 100.0	(100.0) 100.0	(100.0) 100.0	(100.0) 100.0	(100.0) 96.8	(100.0) 92.3	(100.0) 100.0	(100.0) 85.7	(50.0) 50.0	(100.0) 96.0	(100.0) 100.0	(50.0) 66.7	(100.0) 100.0	(100.0) 95.8	(100.0) 100.0	(91.3) 92.3
(E) 進学者数	[0] (0) [0] 0	[0] (0) [0] 0	[0] (0) [0] 0	[0] (0) [0] 0	[0] (0) [0] 0	[0] (0) [0] 0	[0] (0) [0] 0	[0] (0) [0] 0	[0] (0) [0] 0	[0] (0) [0] 0	[0] (0) [0] 0	[0] (0) [0] 0	[0] (0) [0] 0	[0] (0) [0] 0	[0] (0) [0] 0	[0] (0) [0] 0	[0] (0) [0] 0	[0] (0) [0] 0
うち 大学院																		[0] (0) [0] 0
うち 大学																		[0] (0) [0] 0
うち 就職している者																		[0] (0) [0] 0
(F) その他	(9) 18	(3) 9	(0) 2	(7) 20	(4) 11	(3) 4	(2) 6	(4) 8	(9) 21	(3) 17	(11) 17	(9) 12	(1) 4	(2) 4		(5) 20	(1) 8	(73) 181

・ A=C+E+F ・ D=C÷B×100 ・ 上段 () は、女子で内数／就職率 () は、女子の就職率

・ 就職者数 [] は、正規の職員等でないもので内数

・ 進学者数 [] は、本学進学者で内数

・ 進学者数「うち就職している者 []」は、正規の職員等でないもので内数

*1 生命科学院には、後期課程（生命科学専攻）と一貫制課程（臨床薬学専攻）がある

*2 工学院には、工学研究科修了者を含む

2. 地域別就職状況

学 部

平成29年5月1日現在

企業 の所在地		学部	文学部		教育学部		法学部		経済学部		理学部		医学部		歯学部	薬学部		工学部	農学部		獣医学部	水産学部		合 計
			就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数		就職者数	就職者数		就職者数	就職者数		就職者数	就職者数	
北海道	札幌市	31 (21)	16 (12)	48 (15)	41 (13)	9 (4)	64 (53)									1 (1)	11 (9)	27 (6)	10 (4)	1 (0)	1 (0)	11 (6)	270 (144)	
	札幌市以外	20 (9)	5 (1)	4 (1)	7 (3)	5 (1)	12 (8)											4 (1)	3 (1)	2 (2)	5 (0)	67 (27)		
	青森県 岩手県 宮城県 秋田県	2 (2)					3 (1)											1 (1)				1 (0)	7 (4)	
東北	山形県	1 (0)	1 (1)														1 (1)			1 (0)			3 (2)	
	福島県	1 (0)	1 (1)	1 (0)	1 (0)	1 (0)																4 (1)		
	茨城県 栃木県 群馬県			1 (0)																			0 (0)	
関東	埼玉県	1 (1)		1 (0)	1 (1)	1 (1)	1 (1)											1 (0)	1 (1)			1 (1)	8 (6)	
	千葉県	1 (1)		1 (1)	2 (1)	2 (1)	8 (8)										1 (1)	1 (0)					14 (12)	
	東京都	48 (27)	12 (6)	64 (18)	82 (21)	14 (3)	17 (14)									1 (0)	6 (1)	41 (12)	16 (6)	7 (1)	17 (4)	325 (113)		
	神奈川県			1 (0)	4 (1)	2 (0)	1 (0)											2 (0)	1 (0)	1 (1)	2 (0)	14 (2)		
	新潟県	2 (1)	1 (0)	1 (0)	1 (1)													1 (0)			1 (0)	5 (1)		
	富山県 石川県 福井県	2 (1)	1 (0)	2 (1)	3 (1)											1 (0)	1 (0)		1 (1)	1 (0)		9 (4)		
	山梨県			1 (0)																			0 (0)	
	長野県	3 (1)		1 (0)	2 (0)														2 (2)				0 (0)	
	岐阜県 静岡県 愛知県	3 (1) 4 (4)		4 (3) 3 (0)	2 (1) 3 (1)	1 (0) 2 (0)	1 (1)											1 (0) 2 (0)	2 (1) 1 (1)				8 (3)	
近畿	三重県		1 (0)	1 (1)																	1 (1)	1 (0)	3 (2)	
	滋賀県																						1 (0)	
	京都府				1 (0)												2 (1)						3 (1)	
	大阪府	1 (1)	1 (0)	10 (3)	7 (2)	5 (1)	3 (2)									1 (0)	5 (2)	8 (1)		1 (0)	2 (0)	44 (12)		
	兵庫県		1 (0)	2 (0)	3 (1)		1 (1)												1 (1)	3 (3)		11 (6)		
	奈良県 和歌山県				1 (0)															1 (0)			2 (0)	
中国	鳥取県																		1 (0)				1 (0)	
	島根県																						0 (0)	
	岡山県	1 (1)																					1 (1)	
	広島県																	1 (0)					3 (2)	
	山口県	2 (1)																					2 (1)	
	徳島県			1 (0)																			1 (0)	
四国	香川県																		1 (0)		1 (0)		3 (0)	
	愛媛県				1 (0)																		0 (0)	
	高知県																						5 (1)	
	福岡県																						0 (0)	
	佐賀県																						1 (0)	
	長崎県																						0 (0)	
九州	熊本県																						0 (0)	
	大分県																						0 (0)	
	宮崎県																						1 (1)	
沖縄県	鹿児島県																						1 (0)	
																							0 (0)	
																							6 (2)	
就職先詳細不明		1 (0)	43 (23)	146 (44)	166 (49)	40 (10)	115 (92)	0 (0)	3 (1)	27 (15)	91 (22)	45 (20)	25 (10)	45 (11)	871 (369)									
海外																								
合 計		125 (72)	43 (23)	146 (44)	166 (49)	40 (10)	115 (92)	0 (0)	3 (1)	27 (15)	91 (22)	45 (20)	25 (10)	45 (11)	871 (369)									

※ () は女子で内数

専門職大学院

企業 の所在地	研究科等	法科大学院 (法学研究科) 就職者数	会計専門職大学院 (経済学研究科) 就職者数	公共政策大学院 (公共政策学教育部) 就職者数	合 計	
					地域別就職者数	計
北海道	札幌市以外		2	11	13	(4)
	青森県			3	3	(0)
	岩手県				0	(0)
	宮城県		1	1	1	(0)
東北	秋田県				0	(0)
	山形県			1	1	(0)
	福島県				0	(0)
	茨城県				0	(0)
関東	栃木県	1			0	(0)
	群馬県				1	(0)
	埼玉県				0	(0)
	千葉県			2	2	(2)
	東京都			1	1	(1)
	神奈川県		1	15	16	(3)
北陸	新潟県				0	(0)
	富山県				0	(0)
	石川県				0	(0)
	福井県				0	(0)
中部	山梨県				0	(0)
	長野県				0	(0)
	岐阜県				0	(0)
	静岡県				0	(0)
	愛知県				0	(0)
	三重県				0	(0)
近畿	滋賀県		1		1	(0)
	京都府				0	(0)
	大阪府			2	2	(1)
	兵庫県				0	(0)
	奈良県				0	(0)
	和歌山県				0	(0)
中国	鳥取県				0	(0)
	鳥根県				0	(0)
	岡山県				0	(0)
	広島県				0	(0)
	山口県				0	(0)
	徳島県				0	(0)
四国	香川県				0	(0)
	愛媛県				0	(0)
	高知県				0	(0)
	福岡県				0	(0)
	佐賀県				0	(0)
	長崎県				0	(0)
九州	熊本県				0	(0)
	大分県				0	(0)
	宮崎県				0	(0)
	鹿児島県				0	(0)
沖縄県						
海外						
就職先詳細不明				1	1	(1)
合 計		1	5	37	43	(12)

※ () は女子で内数

博士課程

企業の所在地	研究科(学院)		文学研究科 就職者数	法学研究科 就職者数	経済学研究科 就職者数	医学研究科 就職者数	歯学研究科 就職者数	獣医学研究科 就職者数	情報科学 研究科 就職者数	水産科学院 就職者数	環境科学院 就職者数	理学院 就職者数	農学院 就職者数	生命科学*1 就職者数	教育学院 就職者数	国際大学院 就職者数	保健科学院 就職者数	工学院*2 就職者数	総合化学院 就職者数	合 計
	和歌山県	和歌山県以外	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	地域別就職者数
北海道			10 (2)	4 (2)	1 (0)	41 (9)	8 (4)	2 (0)	5 (1)	3 (1)	4 (1)	7 (1)	6 (1)	6 (1)	2 (0)	3 (2)	5 (2)	3 (0)	6 (1)	113 (27)
東北	青森県		3 (0)	1 (0)		14 (2)	4 (1)	1 (0)	1 (0)	3 (1)	3 (1)		2 (0)		3 (1)	1 (0)	1 (1)		1 (0)	38 (7)
	岩手県					1 (0)												1 (0)		2 (0)
	宮城県								1 (0)		1 (0)									0 (0)
	秋田県																			2 (0)
	山形県										1 (1)								1 (0)	0 (0)
関東	福島県					1 (0)						2 (0)	2 (0)						1 (0)	2 (1)
	茨城県								1 (0)									3 (1)	1 (0)	9 (1)
	栃木県																			0 (0)
	群馬県																			0 (0)
	埼玉県								2 (1)		1 (0)						1 (0)	1 (0)	1 (0)	6 (1)
北陸	千葉県					1 (0)		1 (0)				1 (0)		1 (0)						4 (0)
	東京都		2 (1)		1 (1)	2 (0)			21 (4)	2 (0)	3 (1)	4 (1)	1 (0)	6 (0)	1 (0)	1 (0)		7 (1)	13 (2)	64 (11)
	神奈川県					1 (1)	1 (0)		4 (0)		1 (0)	1 (0)	1 (1)					1 (0)	1 (0)	11 (2)
	新潟県																			1 (0)
	富山県																		1 (1)	1 (1)
中部	石川県																			0 (0)
	福井県																			0 (0)
	山梨県													1 (0)						0 (0)
	長野県																			0 (0)
	岐阜県													1 (0)				1 (0)	1 (0)	6 (0)
近畿	静岡県							1 (0)	1 (0)		1 (0)	1 (0)		1 (0)				1 (0)	2 (1)	6 (1)
	愛知県							1 (0)	1 (0)											1 (0)
	三重県																			1 (0)
	滋賀県																			0 (0)
	京都府				1 (1)							1 (0)	1 (0)					1 (0)		4 (1)
中国	大阪府		1 (1)			1 (0)		2 (1)	1 (0)		2 (1)	1 (1)	6 (2)					1 (0)	4 (1)	18 (7)
	兵庫県										1 (0)	1 (0)						1 (0)	1 (0)	4 (0)
	奈良県																			0 (0)
	和歌山県																			0 (0)
	鳥取県																			0 (0)
四国	岡山県																			0 (0)
	広島県																			0 (0)
	山口県																			0 (0)
	徳島県													1 (0)						1 (0)
	香川県							1 (1)				1 (0)		1 (0)						0 (0)
九州	愛媛県																			2 (1)
	高知県																			0 (0)
	福岡県																			0 (0)
	佐賀県																			0 (0)
	長崎県	1 (0)																		1 (0)
沖縄県	熊本県																			0 (0)
	大分県																			0 (0)
	宮崎県																			0 (0)
	鹿児島県																			0 (0)
	計		19 (6)	8 (3)	3 (2)	64 (13)	13 (5)	16 (4)	47 (6)	5 (1)	22 (6)	19 (2)	23 (3)	26 (4)	6 (1)	5 (2)	7 (3)	23 (2)	40 (9)	346 (72)

※()は女子で内数

※1 生命科学(生命科学専攻)と一貫制課程(臨床薬学専攻)がある

※2 工学院には、工学研究科修了者を含む

(学務部キャリア支援課)

緑の ビアガーデン

—木立を渡る風 北大との新たな出会い—

開催日時 2017.7.31(月)～8.4(金) 17:00～20:30
オーダーストップ 20:00 雨天決行

開催場所 北海道大学百年記念会館 札幌市北区北9条西6丁目 北海道大学 構内 (正門から徒歩1分)
※大学構内はお車での入場は出来ません。公共の交通機関をご利用ください。

前売りチケット (販売中: 7月30日(日)まで)	3,000円 (150円券×2枚)	300円おトク!
当日チケット (販売期間: 7月31日(月)～8月4日(金))	3,000円 (150円券×2枚)	

チケット販売場所 インフォメーションセンター「エルムの森」及び北大生協売店

※チケット販売店舗により営業時間が異なります。詳しくは北大HPをご覧ください。※チケットの払い戻しは出来ません。お車の方、および自転車・自賠責を運転される方は、アルコールの摂取はいたしません。

メニュー	販売価格
生ビール	300円
ソフトドリンク	150円
フード	300円～

お問い合せ 北海道大学学生生活協同組合まで **011-746-6218** 前売りチケット購入の方、お席のご予約も承ります。(屋内席のみ)

主催: 北海道大学、協力: 北海道大学校友会エルム、北海道大学生生活協同組合、キリンビール株式会社、ノースブレインファーム株式会社、後援: さっぽろ夏まつり実行委員会

編集メモ

- 木々の緑が濃くなり、青空とのコントラストが美しい季節となりました。
- 毎年夏の恒例となっている「緑のビアガーデン」を、7月31日(月)～8月4日(金)に百年記念会館で開催し

ます。昨年よりも開催期間が1日長くなり、屋外席も増設します。皆様お誘い合わせのうえ、美しい緑のキャンパスで、夕べのひとときをお過ごしください。



2016. 6. 5 室蘭本線 有珠～長和（伊達市）

北の鉄道風景 51 夕日を浴びて

伊達市と洞爺湖町の境界付近に見られる複雑な海岸線は、7000～8000年前と推測される有珠山の火山活動によって生み出されたものだ。羊蹄山などと同じような円錐形の成層火山であった有珠山の噴火に伴う山体崩壊が発生し、それによって生じた岩屑なだれが内浦湾にまで流れ込んだ結果、湾と岬が入り組む、複雑な海岸線がつくられた。このような海岸線の東端にある「エントモ岬」も、上記の過程で生

まれたもののなのだろう。有珠山麓から続く丘が内浦湾にせり出すような地形を持つこの岬に立つと、海岸線を走る列車を海越しに望むことができる。写真は札幌発函館行きの＜スーパー北斗＞が夕日を浴びながら走り去る光景である。

情報科学研究科 准教授 山本 学

北大時報 ⑥ No.759 平成29年6月発行

北海道大学総務企画部広報課 〒060-0808 札幌市北区北8条西5丁目

TEL：(011) 706-2610 / FAX：(011) 706-2092 / E-mail：kouhou@jimuhokudai.ac.jp

北大時報はインターネットでもご覧いただけます。<http://www.hokudai.ac.jp/pr/publications/jihou.html>